

職員へ謝る姿勢なし



苦情対応に「引き続き適正な指導を」と繰り返す佐川長官

職員が苦情の矢面に

長官 職員の使命感に感謝を表明

全国税は10月4日、佐川長官と今年度第1回目の交渉を行いました。交渉では、職員の労働強化をやめ、人事や賃金などの労働条件改善を求めました。

また、交渉冒頭には、佐川長官の理財局長時代の国会答弁を基とした納税者からの批判の矢面に職員が立たせられていることを指摘しましたが、職員に謝る姿勢は見られませんでした。

委員長 定員削減に歯止 また、「できないものは、めをかけてもらいたい。できない」とのスタンス

でなければ、職員の生活と健康は守られない。

佐川長官の理財局長時代の森友事件に関わる言動に国民から批判があり、職員は批判の矢面に立たされている。現場で苦悩する職員へ、何らかの言葉を発するべきだ。

長官 職員の皆さんが高い使命感を持って職務に精励していることに感謝申し上げる。事務の簡素



田中中執(近畿)



塩谷中執(東北)



自らに非の無い苦情で職員が苦しんでいる。

化、効率化に務めながら、職員の健康にも配慮し、明るく風通しのよい職場を作りたい。

全国税 法定外資料を提出した納税者から、「来

年からは提出しない。信用できない」と言われた。消費税無申告事案の調査で、領収書がない仕入税額の否認では、「おたくのトップは認められるの

に」と言われた。総務課長 今後とも適正な職務に努めてほしい。全国税 文書管理の徹底で締め付けられている。提出票はやめてほしい。



吉井総務課長

他の採用と同等にせよ

全国税 今年採用の「社会人基礎研1期生」の調査1年目は15、16件

社会人採用者への研修

全国税 東京研修所でのラジオ体操強制はやめよ。とは、強制ではない。総務課長 強制ではない。

体操強制するな

自主的行っており、励行している。

税大職員へのパワハラやめよ

全国税 税大和光職員の超勤が「月100〜150時間ある」と投書が寄せられてた。

総務課長 部署の超勤状況は把握していない。必要があれば調査する。

全国税 職員の母親から「助けてほしい」と声が届き寄せられている。確認し、改善せよ。

概ね10年後の 税務行政の姿

税務行政の将来像

全国税 「税務行政の将来像」について議論の経過を明らかにすること。長官 概ね10年後の将来像を明らかにしたものである。

全国税 将来像と日曜開庁は考え方が違う。総務課長 概ね10年後の考え方であり、今のニーズへの対応とは異なる。

だ。東京局長との交渉では、「専攻税法研修がないから」と回答した。なぜ研修を無くしたのか。人事課長 社会人経験もあり給与格付も違う。

全国税 府省間配転者や普通科第IIコースも狭めていたが、交渉で変えてきた。なぜまた狭める。人事課長 指摘については検討していきたい。

そらばん弾

国際NGO 「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)がノーベル平和賞を受賞した。市民運動の立場から国際世論を盛り上げ、「核兵器禁止条約」の実現に寄与した実績が評価された▼一二か国が賛成して採択された「核兵器禁止条約」には、世界の九割の核兵器を保有する米国やロシアは参加しておらず、米国の「核の傘」に入る国、日本も参加していない▼ICANの川崎哲国際連帯委員は、「核兵器の禁止と廃絶を願って、勇気をもって声をあげてきた全ての人たち、とりわけ、広島、長崎の原爆被害者の皆様に向けられたもの」と語った▼世界唯一の被爆国である日本が、核兵器の禁止と廃絶の声をあげ続けてきた人々を真切に受け取らない。



「当初配置が管運でなくても理解できる」と稗田委員長

「もう持たない」実感

職場の悲鳴にマニュアル回答

定員「久々に1名増は成果」強調



「当初配置は管運が適している」と佐川長官

管理運営

研修の余裕ない

全国税 管運 専1年目の全員配置をやめ、④研修時間の確保と

十分な要員の確保、②相談事務の切り離し、③国

調査徴収

ノルマ主義やめよ

全国税 1件 当たりの調査

日数を増やすこと。

徴収事務では、換価の猶予制度や納付相談事務が増加しているため、増員すること。人員構成を見直すこと。ノルマ主義による労働強化にしないこと。

長官 調査事務は、適正に実施しなければならぬ。徴収については、納

充実をおこなうこと。

長官 ①事務が効率的・円滑となるよう、適切に配置している。②一般相談事務を切り離すことは考えていない。③署全体の事務の流れが理解でき、育成に適しており、見直すことは考えていない。④日々の実務処理を含め

た研修を行うことが第一。窓口対応能力向上のため課税各部門からも協力を得る。



真貝書記長

税コールセンター活用や広域特官による支援を行っている。職員に加重な負担とならないよう配慮している。

職員減るなら仕事減らせ

全国税 署の定員を大幅に増やすこと
長官 適正公平な課税の実現には、定員の確保は

公正で明朗な人事の確立を

若手抜擢への固執やめよ



星屋人事課長

人事評価制度

異動期に合わせ

全国税 上席6級格付けと6級ポスト増設を関係機関に働きかけ、中高年処遇の改善を図ること。

長官 国際化や高度化が進む中で、仕事が非常に複雑困難化になっており、署の上席の職責が高まっており、6級格付けを査定当局に要望しているが、査定当局は厳しい。しかし、職場全体の処遇を改善するためにも、今後も真に必要なポストを獲得できるように努力したい。

全国税 退職を迎える上席には誰一人として発令がない。上席のまま退職させないためにも、若手抜擢をやめること。

人事課長 人事の基本に則り、職員が意欲と希望をもつて行うよう、期別に与えられたい。職員団体加

差別の意識明白

組合差別やめよ

全国税 全国税差別をやめ、組合員に対する人事差別を根絶すること。東北の桂山さんは連続A評価であり、6級ポスト発令なら、勤務地はどこでも構わないとしていたが発令がなかった。

長官 個別の人事には答えられない。職員団体加

超勤削減に努める

定時退庁は励行

全国税 超勤削減の具体策を示すこと。

長官 職員の健康保持・勤務意欲にとって重要な課題だ。職員の適正な配

置・非常勤職員の活用・ICT化の推進・事務計画の弾力的な運用・管理者の意識を醸成することにより、超過勤務の削減

に努めたい。

全国税 水曜、金曜の定時退庁を励行すること。

長官 水曜日の一斉定時退庁日は励行に努めていきたい。水曜日以外の定時退庁は各局の実情を踏まえて実施している。一律に庁において実施することは考えていない。

前号(2077号)二面、管理運営部門の大会発言部分の「管運で118名減」との記述は、「全系統で118名減」に訂正いたします。